

市民ワークショップに関する報告

1)開催概要

■目的

地域の魅力創出、課題解決にあたっては行政だけでなく、地域住民等と協働し進めていく必要があり、市民に広く今後の社会情勢の変化やまちづくりを情報発信するとともに、各地域の魅力等に関する、地域住民との意見交換を行い、その意見を地域別構想に反映させることを目的に、ワークショップを実施した。

■実施方法

日常生活のつながりや地形条件から14の地域生活圏を区分してワークショップを開催し、住民や学生等の提案を整理しました。また、市民ワークショップの開催前に参加予定の学生によるワークショップを実施し、多様な視点からの意見やアイデアを議論した。

○事前学生ワークショップ(日程:R6.8.9)

大学生の視点で富山市の様々な地域の魅力を調査し、将来に向けた取り組みのアイデアを考えよう

富山大学、富山国際大学、富山県立大学の学生が参加し、これからの社会情勢の変化や本市のまちづくり方針や取り組みを学ぶとともに、本市の14地域を「うみ」「まち」「やま」に分けて、「都市の魅力」や「魅力を活かすための取り組みや改善点」の提案等を行った。

○市民ワークショップ(日程:R6.9~12)

第1回 地域の魅力を考えよう

自治振興会や各種団体等の地域関係者、学生が参加し、これからの社会情勢の変化や本市のまちづくり方針等の理解を深めるとともに、地域生活圏の特徴、魅力、改善点について意見交換し、「これからのまちづくりに活かせる魅力」を整理した。

第2回 地域のイチオシの魅力を活かすまちづくりのアイデアを考えよう

第1回の成果を確認しながら、地域毎に「地域のイチオシの魅力」を選び、「その魅力を活かすアイデア」や「アイデアを実現するために、自分や地域ができること」を整理した。また、ワークショップ終了後には、ワークショップの成果や効果の確認などを目的に、アンケート調査を実施した。

■開催日程及び参加者

○事前学生ワークショップ

地域区分		開催日	参加人数
うみ	和合・富山北部・水橋	R6.8.9	24名
まち	富山中央・富山東部・富山西部・呉羽		
やま	富山南部・大山・大沢野・細入・婦中・八尾・山田		

○市民ワークショップ(第1回、第2回)

地域区分		第1回		第2回	
A	富山中央・富山東部	R6.10.5	28名	R6.11.30	25名
B	富山西部・呉羽	R6.10.6	12名	R6.11.30	16名
C	和合・富山北部・水橋	R6.10.5	22名	R6.11.24	20名
D	富山南部・大山・大沢野・細入	R6.9.29	21名	R6.12.1	19名
E	婦中・八尾・山田	R6.9.29	23名	R6.12.1	17名
		計	106名	計	97名

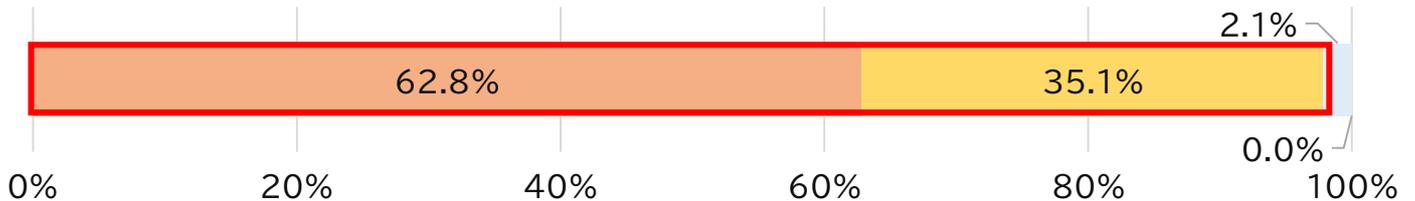
2)出席者へのアンケート結果

第2回ワークショップの参加者(97名)を対象に、ワークショップの内容やコンパクトなまちづくりの評価、これからのまちづくりについて、アンケート調査を実施した。

① 市民ワークショップ全般について

<Q1 市民ワークショップへの参加に対する参加者の評価>

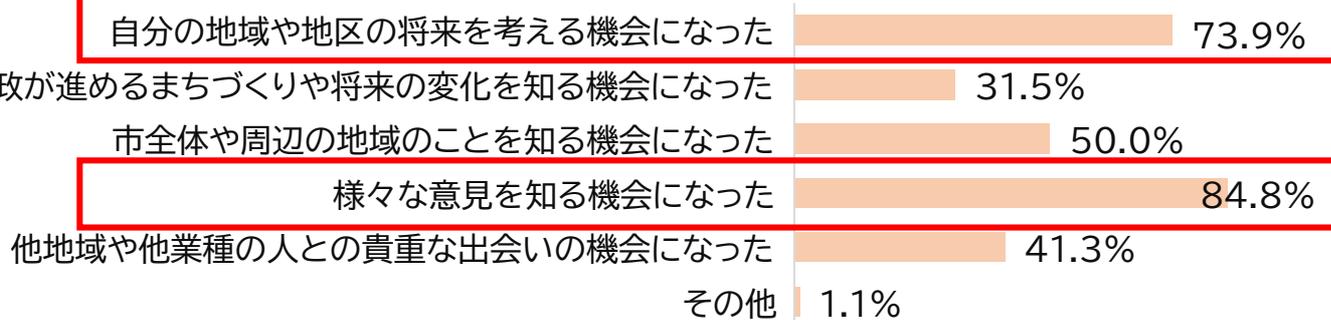
(N=94)



■ 良かった ■ どちらかといえば良かった ■ どちらかといえば良くなかった ■ 良くなかった

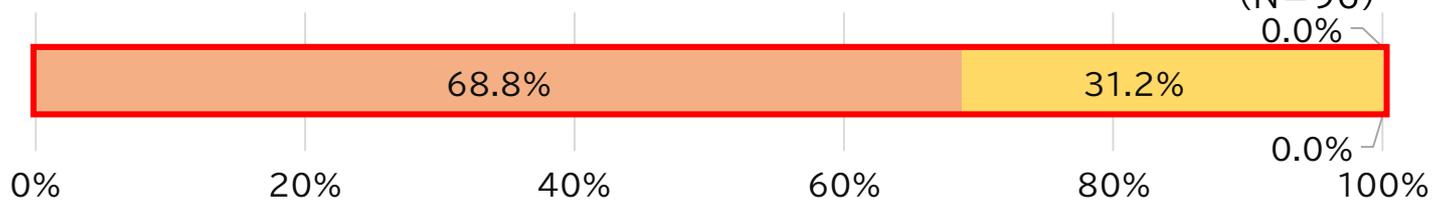
<Q1で「良かった」、「どちらかといえば良かった」と回答した参加者の回答理由>

(N=92)



<Q2 今後のワークショップ等(まちづくりの情報を得て、様々な市民で議論する場)に対する参加者の意識>

(N=96)



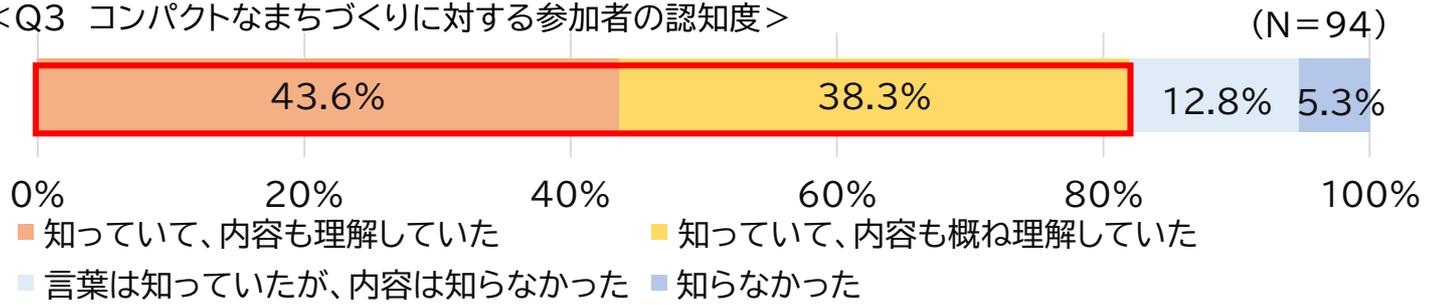
■ 必要 ■ どちらかといえば必要 ■ どちらかといえば不要 ■ 不要

- ・「良かった」、「どちらかといえば良かった」を合わせ、9割以上からよい評価である。
- ・また、その7割以上の方が「自分の地域や地区の将来を考える機会になった」と回答。
- ・今後のワークショップ等のまちづくりを様々な市民で議論する場に対しては、参加者全員が「必要」と回答しており、「継続的に機会を設けるべき」との意見もあった。

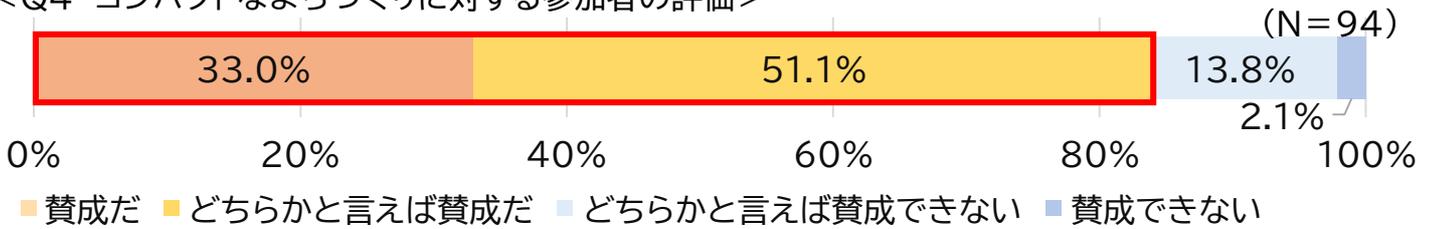
■社会情勢の変化や課題が複雑化する中、市民ワークショップを通じ、様々な市民が多様な視点から意見交換し、魅力を活かすアイデアを共有できたことで、地域主体でのまちづくりのきっかけになったと考える。

② コンパクトなまちづくりの認知度や評価について

<Q3 コンパクトなまちづくりに対する参加者の認知度>

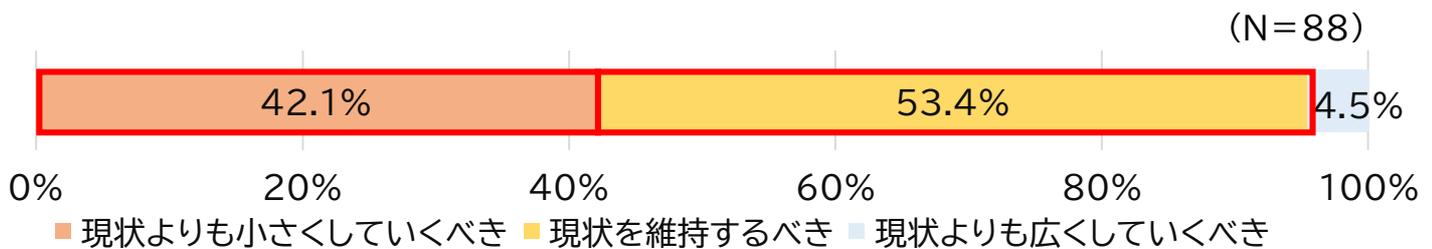
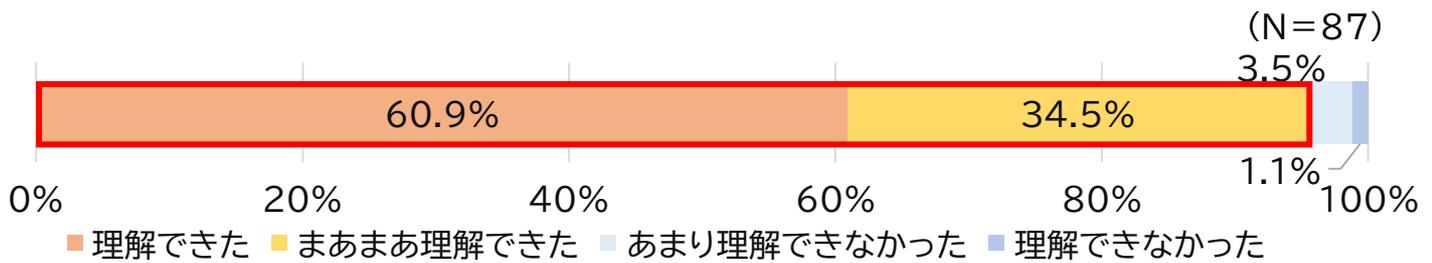


<Q4 コンパクトなまちづくりに対する参加者の評価>

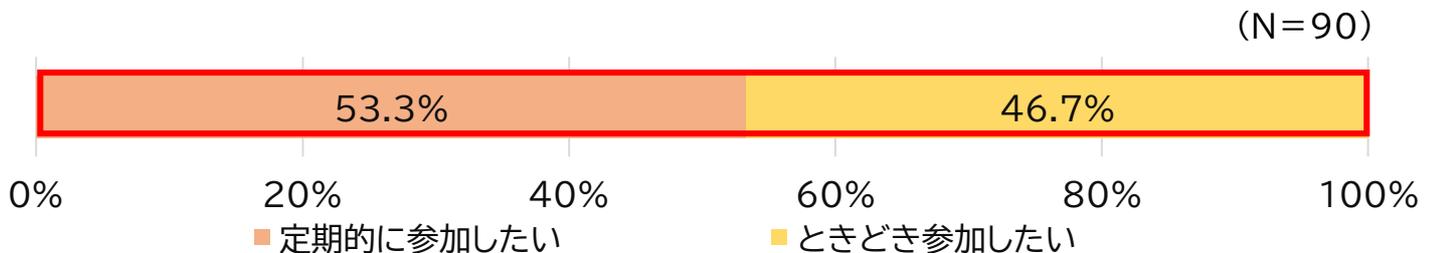


・参加者の8割以上がコンパクトなまちづくりを認知し、賛成側の評価。

③ これからのまちづくりについて



<Q7 本格的な人口減少で、市民参加のまちづくりの必要性が高まる際の参加者の意識>



- ・9割以上の方が、これからのまちづくりに関する変化や課題について理解している。
- ・今後の市街地の広がりについて、「小さくしていくべき」、「現状維持」を合わせて9割に上る。
- ・今度の地域などでのまちづくり活動について、9割以上が参加の意向を示している。

■多くの市民がまちづくりの必要性を感じている。また、地域コミュニティの維持・活性化に向けた組織をつくり、取組みを始めようとする地域もあり、支援が必要と考える。